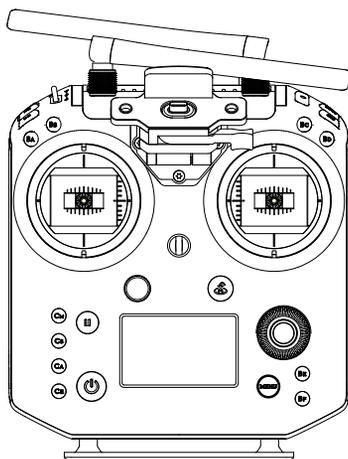


# Cendence

## ユーザーマニュアル V1.2

2018年3月



## 🔍 キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードで検索して、トピックを見つけます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書を読んでいる場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始します。

## 👉 任意のトピックへの移動

目次のトピックの全リストが表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに進みます。

## 🖨️ 本書を印刷する

本書は高解像度印刷に対応しています。

# 本マニュアルの使用法

## 凡例

🚫 警告

⚠️ 重要

💡 ヒントとコツ

📖 参考

## チュートリアルビデオの視聴

以下のサイトでチュートリアルビデオを視聴し、Cendence™ の正しく安全な使用方法を習得してください。



<http://www.dji.com/cendence/info#video>

## DJI GO 4 アプリのダウンロード

飛行時には、DJI GO™ 4 など、DJI 機体と互換性のあるアプリを必ず使用してください。



QR コードをスキャンするか、「<https://m.dji.net/djigo4>」でアプリをダウンロードします。

Android v4.4 以降または iOS v9.0 以降の OS がインストールされているモバイルデバイスを使用してください。

\* 安全性確保のため、飛行中に DJI GO 4 または DJI 製品と互換性のあるアプリと接続していない、またはログインしていない場合は、フライトは高度 30m まで、距離 50m までに制限されます。

## DJI Assistant 2 のダウンロード

使用前に ASSISTANT™ 2 をダウンロードしてインストールします。

<http://www.dji.com/cendence/info#downloads>

# 目次

<b>本マニュアルの使用方法</b>	2
凡例	2
チュートリアルビデオの視聴	2
DJI GO 4 アプリのダウンロード	2
DJI Assistant 2 のダウンロード	2
<b>製品の特徴</b>	4
はじめに	4
同梱物	4
送信機の各部名称	5
<b>送信機の準備</b>	7
インテリジェントバッテリーの取り付け／取り外し	7
バッテリーの充電	7
モニターの送信機への取り付け	8
<b>送信機の実操作</b>	9
ボタンの種類	9
送信機の電源のオン／オフ	9
送信機のリンク	9
機体の操作	11
ジンバルの制御	13
カメラの操作	14
カメラ設定の調整	14
カスタマイズ可能ボタン	15
デュアル送信機モード	15
<b>アクセサリーの使用方法</b>	17
パッチアンテナの使用方法	17
コントロールスティックカバーの取り付け	18
<b>付録</b>	19
送信機のファームウェア更新	19
仕様	19

# 製品の特徴

## はじめに

Cendence™ 送信機は、DJI の LIGHTBRIDGE™ 技術を採用しており、最大伝送距離は 7km（日本国内では 4km）です。\*デュアル伝送周波数をサポートしているため、HD ビデオダウンリンクの信頼性が高く安定しています。デュアル送信機モードでは、2 台の送信機を使用して機体とカメラを同時に個別に制御することができます。ユーザーが最大 100m 離れていてもデュアル送信機モードは作動します。

送信機は WB37 インテリジェントバッテリーで作動し、このバッテリーは充電ポートで 180W 充電器を使用すると約 2 時間 24 分で充電でき、WCH2 インテリジェントバッテリー充電ハブを使用すると約 1 時間 11 分で充電できます。送信機の最長稼働時間は、モニターに電力供給せず、デュアル送信機モードを無効にした状態で約 4 時間です。\*\*

Cendence には DJI CrystalSky™ モニター（本ユーザーガイドでは例として 7.85 インチモデルを使用）を装着でき、内蔵 DJI Pilot アプリまたは DJI GO™ 4 アプリを使用して、HD ライブカメラビューを見ながら、正確で応答性の高い飛行を体感していただけます。

さまざまなカスタマイズ可能なボタンにより、フライトコントローラー、カメラ、ジンバルのパラメータを手動で調整できます。Cendence パッチアンテナは、高利得の信号を送信し、受信を向上させます。

\* 電波干渉がなく開けた場所で、機体が高度 120m のときの、送信機を使用した場合の最大伝送距離（FCC）です。

地域の法規に準拠するため、一部の国や地域では 5.8GHz の周波数は使用できません。

\*\* 最長稼働時間は、スマートデバイスやモニターに電力を供給しない場合の推定値です。

本マニュアル掲載の他製品は、DJI 公式オンラインストアで別途ご購入いただけます。

## 同梱物

Cendence 送信機 1 台

WB37 インテリジェントバッテリー \*1 個

Cendence モニター取り付けブラケット \*1 個

Cendence 送信機サポートリグ \*1 個

ドライバー 1 本

ネジ 2 個

Cendence コントロールスティックカバー 2 個

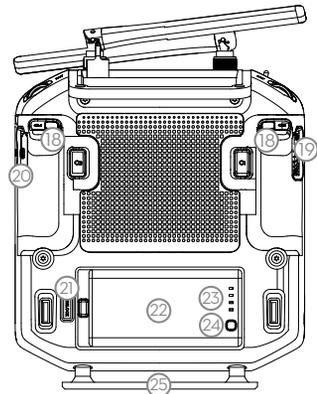
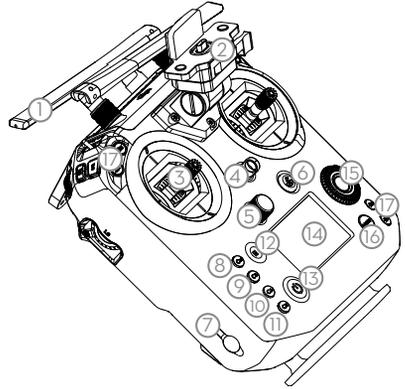
Cendence コントロールスティックカバー取り付けキー 1 個

送信機用ストラップ 1 個

\* 送信機に装着されています。

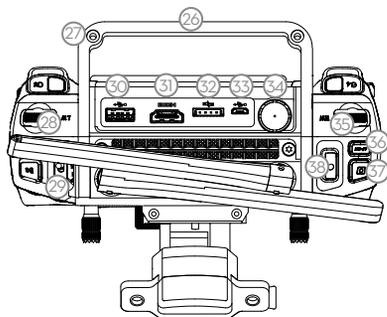
## 送信機の各部名称

1. アンテナ  
機体制御と動画信号を送受信します。
2. モニター取り付けブラケット  
DJI CrystalSky モニターの取り付けに使用します。
3. コントロールスティック  
機体の向きと動きを制御します。
4. ストラップフード
5. フォーカス調整ノブ  
回して焦点距離を設定します。
6. Return-to-Home (RTH) ボタン  
長押しすると、Return-to-Home (RTH) を開始します。
7. 電源ポート  
充電器に接続して送信機のバッテリーを充電します。
8. EV 設定ボタン  
このボタンを押し、カメラ設定ダイヤルを回してEVを設定します。
9. シャッター設定ボタン  
このボタンを押し、カメラ設定ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。
10. 絞り設定ボタン  
このボタンを押し、カメラ設定ダイヤルを回して絞りを設定します。
11. ISO 設定ボタン  
このボタンを押し、カメラ設定ダイヤルを回してISOを設定します。
12. 一時停止ボタン  
TapFly、ActiveTrack、その他のインテリジェント・フライト・モードを終了するには、ボタンを1回押します。
13. 電源ボタン  
送信機の電源をオン/オフにします。
14. 送信機ディスプレイ  
機体とカメラの情報を表示します。
15. カメラ設定ダイヤル  
EV、シャッター、絞り、ISO の設定ボタンとの組み合わせで作動し、値を調整します。



16. カスタマイズ可能ボタン設定メニューボタン  
ボタンを押し、DJI GO 4 アプリでカスタマイズ可能ボタン機能を設定します。
17. カスタマイズ可能ボタン (BA-BH)  
DJI GO 4 アプリを使ってカスタマイズできます。
18. カスタマイズ可能ボタン (C1-C4)  
DJI GO 4 アプリを使ってカスタマイズできます。
19. 左レバー  
DJI GO 4 アプリを使ってカスタマイズできます。

- 20. 右レバー  
DJI GO 4 アプリを使ってカスタマイズできます。
- 21. バッテリー解除ボタン
- 22. WB37 インテリジェントバッテリー
- 23. バッテリー残量 LED  
インテリジェントバッテリーのバッテリー残量を表示します。
- 24. バッテリー残量ボタン  
ボタンを押すと、バッテリー残量が表示されます。
- 25. 送信機用サポートリグ
- 26. ハンドルレバー
- 27. パッチアンテナ取り付け穴  
Cendence パッチアンテナの取り付けに使用します。
- 28. 左ダイヤル  
ジンバルのチルトを制御します。
- 29. フライトモードスイッチ  
P モード、S モード、A モード間の切り換えを行います。
- 30. USB ポート  
サードパーティ製モバイルデバイスを使用する場合の、DJI GO 4 アプリ実行用モバイルデバイス接続口です。
- 31. HDMI A ポート（動画出力用）  
動画出力用の HDMI A ポートです。
- 32. CAN-BUS ポート  
外部デバイスへの接続に使用します。

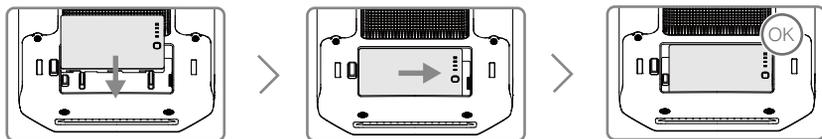


- 33. Micro USB ポート  
ファームウェアのアップデートに使用します。
- 34. SDI ポート（動画出力用）  
動画出力に使用します。
- 35. 右ダイヤル  
ジンバルのパンの制御に使用します。
- 36. オートフォーカスボタン  
ボタンを押すと自動的に焦点を合わせます。
- 37. 録画ボタン  
録画ボタンを押して動画の録画を開始します。再度押すと録画を停止します。
- 38. シャッターボタン  
シャッターボタンを押し、静止画を撮影します。動画の録画中も写真を撮影することができます。

## 送信機の準備

### インテリジェントバッテリーの取り付け／取り外し

バッテリーをバッテリースロットに置き、カチッと音がするまで端へスライドさせます。



- ⚠ バッテリーを取り外す前にバッテリー解除ボタンを押します。
- バッテリー残量を確認するにはバッテリー残量ボタンを1回押します。

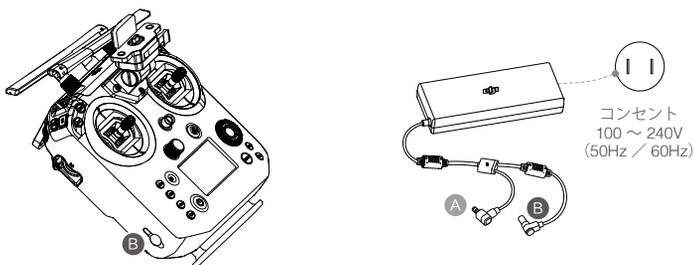
### バッテリーの充電

送信機に電力を供給する WB37 インテリジェントバッテリーは、充電ポートまたは WCH2 インテリジェントバッテリー充電ハブによって充電できます。

#### 充電ポートの使用

以下の説明では INSPIRE™ 2 用充電器を例として使用しています。

バッテリーを送信機に入れ、バッテリー電源ポートのコネクター B を接続し、充電器をコンセント（100 ～ 240V、50/60Hz）に接続します。充電が完了すると、送信機のディスプレイに 100% と表示されます。



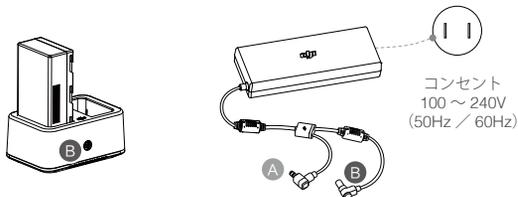
充電時間：2 時間 24 分

#### 充電ハブの使用

以下の説明では、Inspire 2 用充電器と WCH2 インテリジェントバッテリー充電ハブを例として使用しています。

バッテリーを充電ハブに入れ、バッテリー充電器のコネクター B を充電ハブに接続し、充電器をコンセント（100 ～ 240V、50/60Hz）に接続します。充電ハブは、バッテリー残量の多いバッテリーから順に充電します。充電が完了すると、ブザーが鳴り始めます。バッテリーを取り外すか、ブザースイッチをオフすると、ブザー音が停止します。

充電中は充電ハブが緑色に点滅し、充電が完了すると緑色の点灯に変わります。



WCH2 充電ハブを使用する場合、充電時間は約 1 時間 11 分です (バッテリー 1 個の場合)。

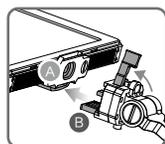
⚠ USB 電源ポートを使用して 5V/2A のモバイルデバイスを充電できます。

☀ 詳細については WCH2 充電ハブのユーザーガイドを参照してください。

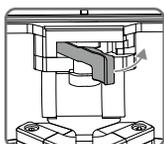
## モニターの送信機への取り付け

### DJI CrystalSky モニターの取り付け

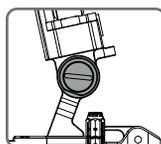
本ガイドでは、DJI CrystalSky 7.85 インチを例として使用しています。



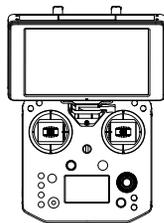
B 部のロックが解除されていることを確認します。B 部を A 部へ取り付けます。



取り付けブラケットをロックします。

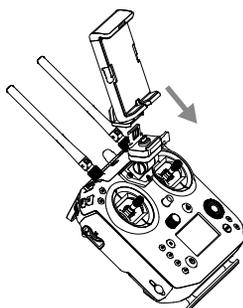


硬貨を使用してピッチ軸の締め付けを調節します。

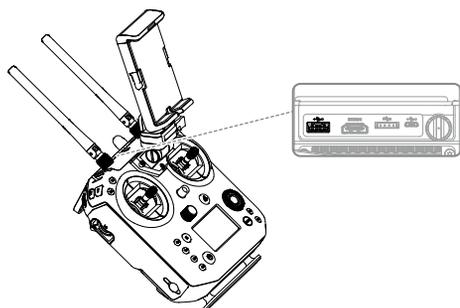


### サードパーティ製モバイルデバイスの取り付け

その他のモバイルデバイス (iPhone や iPad など) については、Cendence モバイルデバイス・ホルダーと、対応した USB ケーブルが必要です。



取り付けブラケットを解除してモバイルデバイス・ホルダーを取り付けます。



取り付けブラケットをロックします。

モバイルデバイスを取り付け、クランプを締め付けて固定します。お手持ちのモバイルデバイスを USB ケーブルを使って送信機に接続します。ケーブルの一方の端をモバイルデバイスに接続し、もう一方の端を送信機の背面にある USB ポートに接続します。

# 送信機の操作

## ボタンの種類

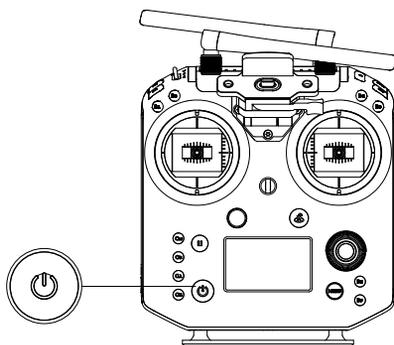
事前設定されたボタンを使用して機体やカメラを制御することができ、また DJI GO 4 アプリによりカスタマイズ可能なボタンに機能を割り当てることもできます。以下の 3 種類のボタンがあります。

1. 機体制御のために事前設定されたボタン（一時停止ボタン、RTH ボタンなど）
2. カメラ操作のために事前設定されたボタン（シャッターボタン、録画ボタン、フォーカス調整ノブなど）
3. DJI GO 4 アプリにより設定できるカスタマイズ可能なボタンとノブ

## 送信機の電源のオン／オフ

以下の手順に従って送信機の電源のオン／オフを切り替えます。

1. 現在のバッテリー残量を確認するには、電源ボタンを 1 回押します。バッテリー残量が少ない場合は送信機を充電してください。
2. 次に電源ボタンを長押しして、送信機の電源をオンにします。
3. 使用後送信機の電源をオフにするには、ステップ 2 を繰り返します。

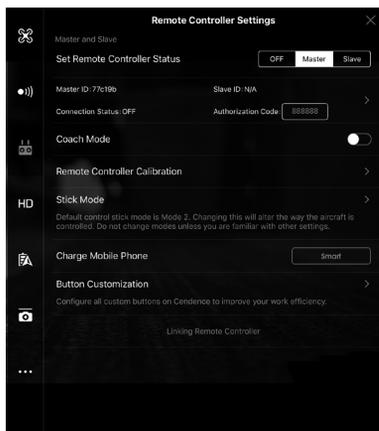


## 送信機のリンク

リンク接続作業は、送信機を初めて使用する場合にのみ必要です。送信機をリンクするには以下の手順に従ってください。

1. 送信機の電源を入れ、モバイルデバイスを接続して DJI GO 4 を起動します。
2. 機体の電源を入れます。
3. カメラビューに入り、下記の [送信機リンク] ボタンをタップします。
4. DJI GO 4 アプリにカウントダウンボックスが表示され、送信機がリンク準備状態になり、ディスプレイに [接続中] と表示されビープ音が鳴ります。

5. 機体のリンクボタンを探し、リンクボタンを押すとリンクが開始されます。送信機ディスプレイに現在のステータス情報が表示されます。マスター送信機には機体のステータスが表示され、スレーブ送信機にはカメラ設定が表示されます。



**⚠** リンク後に「接続できません」と表示される場合は、上記手順を繰り返してリンクを再試行してください。

## 機体の操作

### 機体の制御

本セクションでは、送信機を使って機体の向きを制御する方法を説明します。コントロールは、モード1、モード2、モード3、カスタムモードに設定できます。

#### モード1

##### 左スティック



前方



後方



左旋回

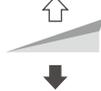


右旋回

##### 右スティック



上昇



下降



左



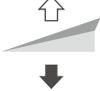
右

#### モード2

##### 左スティック



上昇



下降



左旋回

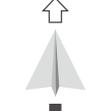


右旋回

##### 右スティック



前方



後方



左



右

#### モード3

##### 左スティック



前方



後方



左

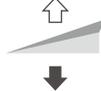


右

##### 右スティック



上昇



下降



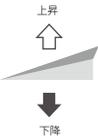
左旋回



右旋回

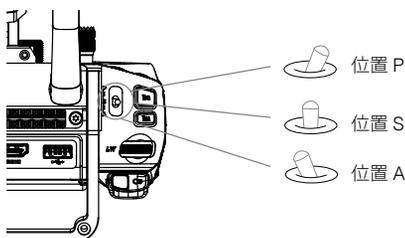
スティックモードは、初期設定ではモード2に設定されています。

- ☑ スティックニュートラル/中心点：コントロールスティックが中央にあります。  
コントロールスティックを動かす：コントロールスティックを押して、中央位置から遠ざけます。

送信機 (モード 2)	機体	備考
左スティック 		左スティックを上下に動かして機体の高度を変更します。 上昇させるにはスティックを押し上げ、下降させるには押し下げます。両方のスティックをともに中央に戻すと、機体はその場でホバリングします。 スティックが中央位置から離れるほど、機体の高度変更速度が速くなります。機体の高度を急激に変えないよう、コントロールスティックは常に優しくゆっくりと動かしてください。
左スティック 		左スティックを左右に動かして、機体の進行方向を制御します。 スティックを左に押しすと機体は反時計回りに回転し、右に押しると時計回りに回転します。スティックを中央に戻すと、機体は現在の向きを維持します。 スティックが中央位置から離れるほど、機体の回転速度が速くなります。
右スティック 		右スティックを上下に動かすと、機体を前後に移動できます。 スティックを上を押すと前進し、下を押すと後進します。スティックを中央に戻すと機体はその場でホバリングします。 スティックが中央位置から離れるほど、ピッチ角が広がり、飛行速度も上がります。
右スティック 		右スティックを左右に動かすと、機体を左右に移動できます。 左に押しすと左に飛行し、右に押しすと右に飛行します。スティックを中央に戻すと機体はその場でホバリングします。 スティックが中央位置から離れるほど、ピッチ角が広がり、飛行速度も上がります。

### フライトモードスイッチ

このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。次のいずれかを選択します：Pモード、Sモード、Aモード



スイッチの位置	☒	フライトモード
位置 P		Pモード
位置 S		Sモード
位置 A		Aモード

**Pモード（ポジショニング）**：Pモードは、強いGPS信号受信時に最適に動作します。機体は、GPS、ステレオ・ビジョンシステム、赤外線検知システムを使用して、機体の安定化、障害物回避、動く被写体の追尾を行います。このモードでは、TapFly（タップフライ）やActiveTrack（アクティブトラック）などの高度な機能が有効になります。

**Sモード（スポーツ）**：機体のゲイン値の調整を行うと、機体の操作性が向上します。このモードでは、障害物検知システムが無効になるので注意してください。

**Aモード（姿勢）**：GPSやビジゲイン値の調整ムを利用できない場合、操作性位置決めには気圧計のみを使用し、高度を制御します。

フライトモードスイッチの位置にかかわらず、フライトモードスイッチはPモードにロックされます。フライトモードを変更するには、DJI GO 4でカメラビューに進み、[メインコントローラー設定]で[マルチフライトモード]を有効化します。[マルチフライトモード]を有効化した後、ポジションモードにするには[P]、スポーツモードにするには[S]に切り替えます。

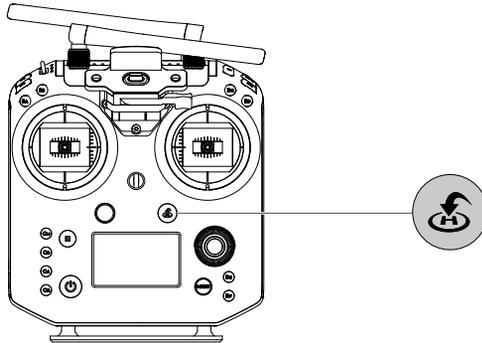
### RTH ボタン

RTHボタンを長押しして、Return-to-Home（RTH）を開始します。機体は最後に記録されたホームポイントへ戻ります。もう一度このボタンを押すと、RTHはキャンセルされ、機体を制御できるようになります。

ピープ音でReturn-to-Homeステータスを判断できます。

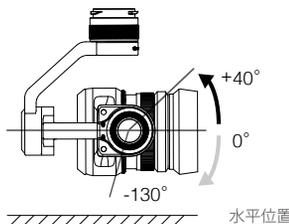
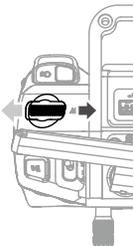
ピープ音が1回鳴る場合、機体に戻るよう要求していますが、応答を受信できていないことを示します。

ピープ音が2回鳴る場合、Return-to-Home中であることを示します。

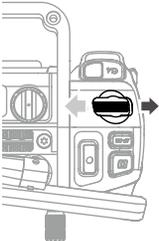
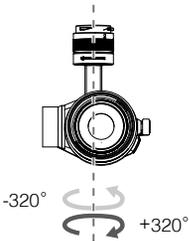


## ジンバルの制御

ジンバルのチルトを調整するには、左ダイヤルと右ダイヤルを使用します。



左ダイヤルでジンバルのチルトを制御します。ダイヤルを右に回すと、ジンバルは上向きにシフトします。ダイヤルを左に回すと、ジンバルは下向きにシフトします。ダイヤルを動かさないと、カメラは現在の位置を維持します。

		<p>右ダイヤルでジンバルのパンを制御します。ダイヤルを右に回すと、ジンバルは時計回りにシフトします。ダイヤルを左に回すと、ジンバルは反時計回りにシフトします。ダイヤルを動かさないと、カメラは現在の位置を維持します。</p>
---	---	--

## カメラの操作

送信機のシャッターボタンとビデオ録画ボタンで動画／静止画を撮影します。

1. シャッターボタン  
シャッターボタンを押し、静止画を撮影します。連続撮影モードが選択されている場合、押し続けると複数の静止画を撮影できます。動画撮影中でも静止画を撮影できます。
2. ビデオ録画ボタン  
1回押すと動画の録画を開始し、もう一度押すと録画を停止します。
3. オートフォーカスボタン  
オートフォーカスするにはボタンを1回押します。

## カメラ設定の調整

1. EV 設定  
EV 設定ボタンを押しながら同時にカメラ設定ダイヤルを回して EV 値を設定します。
2. シャッター設定  
シャッター設定ボタンを押しながら同時にカメラ設定ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。
3. 絞り設定  
絞り設定ボタンを押しながら同時にカメラ設定ダイヤルを回して絞り設定を行いません。
4. ISO 設定  
ISO 設定ボタンを押しながら同時にカメラ設定ダイヤルを回して ISO 値を設定します。
5. フォーカス調整  
フォーカス調整ノブを回して焦点距離を設定します。



## カスタマイズ可能ボタン

DJI GO 4 でカスタマイズ可能ボタン設定メニューに進みます。ここで左レバー、右レバー、C1～C4 ボタン、BA～BH ボタンの機能を設定できます。



## デュアル送信機モード

デュアル送信機モードでは、同一機体に複数の送信機を接続できます。マスター送信機の操縦者は機体の向きを制御し、スレーブ送信機の操縦者はジンバルの動きとカメラ操作を制御します。マスター送信機とスレーブ送信機は Wi-Fi で双方向に通信します。

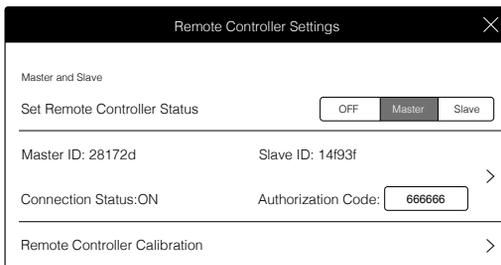
- ⚠️ • デュアル送信機モードでは、マスター送信機に優先権があるとき、マスター送信機はジンバルのピッチとパンを制御できます。スレーブ送信機に優先権があるとき、スレーブ送信機はジンバルのピッチ、パン、ロールを制御できます。
- ロシアおよびイスラエルでは、デュアル送信機モードは使用できません。

### デュアル送信機モードの設定

初期値ではデュアル送信機モードは無効になっています。DJI GO 4 アプリにより、マスター送信機側のこの機能を有効化する必要があります。設定は下記手順に従ってください。

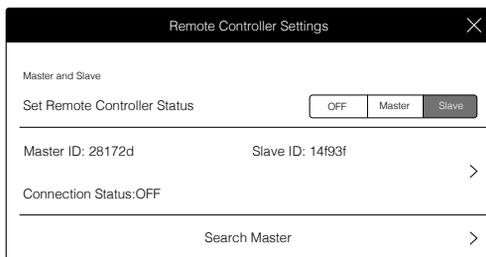
#### マスター送信機：

1. 送信機をお手持ちのモバイルデバイスに接続し、DJI GO 4 アプリを起動します。
2. カメラビューに進み、 をタップして送信機設定ウィンドウに入ります。
3. マスターを選択し、送信機をマスター送信機として設定します。
4. スレーブ送信機の接続パスワードを入力します。



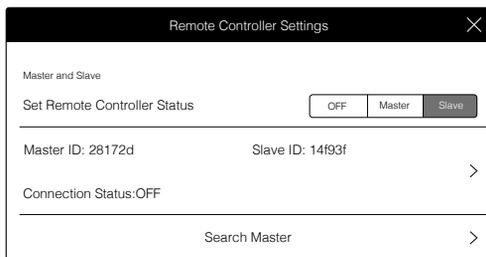
「スレーブ」送信機：

1. [スレーブ] を選択し、送信機をスレーブ送信機として設定します。

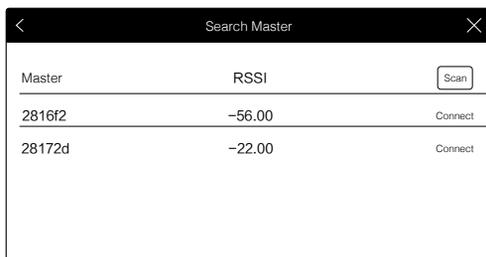


- ⚠ • [スレーブ] モードになっているときは、送信機は機体へのリンクも機体の向きの制御もできません。
- 機体を送信機に接続して制御したい場合、DJI GO 4 アプリで [マスター] を選択します。

2. 周辺エリアで「マスター」送信機を探索します。



3. マスターリストからマスター送信機を選択し、パスワードを入力して接続します。



# アクセサリーの使用法

## パッチアンテナの使用法

### パッチアンテナの取り付け

以下の手順に従ってパッチアンテナを取り付けます。

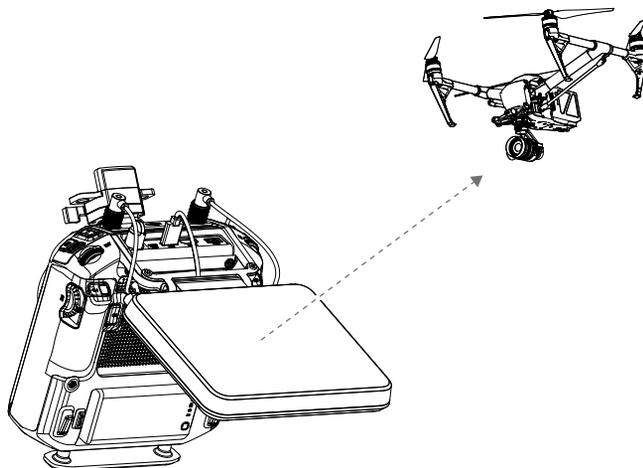
1. 元から付いているアンテナ用ネジを回してアンテナを取り外します。アンテナの損傷を避けるために、アンテナ本体ではなくアンテナ基部だけをネジから引っ張ってください。
2. パッチアンテナを2本のネジで取り付け、2本のアンテナケーブルを接続し、CAN-BUS ケーブルを送信機に接続します。



⚠ アンテナの着脱前に必ず送信機の電源をオフにしてください。

### 使用方法

機体と送信機間の信号伝送が最も良好に実施されるのは、以下の図に示されている範囲にある場合です。



最適な伝送範囲内で機体を飛行させてください。伝送が最も良好に実施されるように、操縦者と機体間の距離と位置を調整してください。

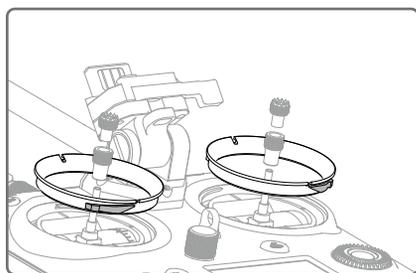
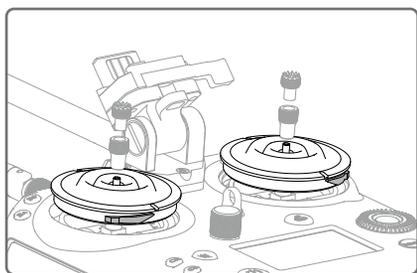
## コントロールスティックカバーの取り付け

以下の手順に従ってコントロールスティックカバーを取り付けます。

1. コントロールスティックカバー取り付けキーを使用してスティックを囲んでいるリングを取り外し、スティック上部のネジを外します。
2. コントロールスティックカバーを送信機に取り付け、コントロールスティックカバー取り付けキーで固定します。
3. スティックにネジを再び取り付けます。



**⚠** 2つあるコントロールスティックカバーは同じものではありません。スティックを囲んでいる2つのリングも同じものではありません。次の図で、左と右のコントロールスティックカバーおよびリングの違いを確認し、それぞれのコントロールスティックカバーを、該当する側に取り付けてください。



# 付録

## 送信機のファームウェア更新

### DJI GO 4 アプリの使用

送信機の電源を入れ、DJI GO 4 アプリに接続します。新しいファームウェアのアップグレードが利用できる場合、プロンプトが表示されます。アップグレードを開始するには、モバイルデバイスをインターネットに接続し、画面の指示に従います。

- ⚠️ • DJI GO 4 アプリがインターネットに接続されていることを確認してください。
- 送信機のバッテリー残量が十分あることを確認してください。
- ファームウェアの更新中は、機体をパソコンから取り外さないでください。

## 仕様

送信機 (Cendence)	
型式	GL800A
動作周波数	2.400 ~ 2.483GHz、5.500 ~ 5.700GHz
最大伝送距離 (障害物や干渉がない場合)	2.4GHz : 7km (FCC)、3.5km (CE)、 4km (SRRC)、4 km (MIC)
EIRP	2.4GHz : 26dBm (FCC)、17dBm (CE)、 20dBm (SRRC)、17dBm(MIC)
電源	延長インテリジェントバッテリー (モデル: WB37-4,920mAh-7.6V)
インテリジェントバッテリー	4,920mAh LiPo
充電中	DJI 充電器
出力	20W (DJI CS550 モニターへ電源供給) 12W (モニターへの電源供給なし)
ビデオ出力ポート	USB、HDMI、SDI
USB 電源	iOS : 1A、5.2V (最大) Android : 1.5A、5.2V (最大)
デュアルユーザー機能	Master-and-Slave 接続
動作環境温度	-20 ~ 40°C
保管環境温度	3 ヶ月以内 : -20 ~ 45°C ; 3 ヶ月超 : 22 ~ 28°C
充電温度	5 ~ 40°C
対応ディスプレイ	DJI CrystalSky モニター iPhone、iPad などのモバイルデバイス (Cendence モバイルデバイス・ホルダーが必要)
充電時間	約 2 時間 24 分 (充電ポート経由で 180W 充電器を使用)
最長移動時間	約 4 時間 (マスター送信機機能のみ有効でモニターに電源供給しない場合)
対応する DJI 機体	Inspire 2 および Matrice 200 シリーズ
重量	1,041g
パッチアンテナ	
寸法 (折りたたみ時)	167 × 153.5 × 22.8 mm
寸法 (展開時)	167 × 165.5 × 22.8 mm
重量	330 g
半電波強度ビーム幅	60° (2.4GHz)、30° (5.8GHz)
アンテナゲイン	8dBi (2.4GHz)、10dBi (5.8GHz)



DJI incorporates HDMI™ technology.  
The terms HDMI and HDMI High-Definition Multimedia Interface, and the  
HDMI Logo are trademarks or registered trademarks of HDMI Licensing LLC  
in the United States and other countries.

本内容は変更されることがあります。

最新版は下記よりダウンロードしてください。  
<http://www.dji.com/cendence>

If you have any questions about this document, please contact DJI by  
sending a message to [DocSupport@dji.com](mailto:DocSupport@dji.com).

© 2018 DJI All Rights Reserved.

